

京都の福祉

554

2016.5 May



●平成28年度 京都府社会福祉協議会 事業計画・予算

●わかプロジェクト

社会福祉法人がわかになって福祉課題を解決する

孤立を防ぐための京都府社会福祉協議会の取組み

●ひとつなぎ

●夢中！熱中！ふくしびと

かがやきの社 就労継続支援B型事業所「つばさ」

もえくす

▼2025年問題が10年後に迫ってきた。平成27年6月に厚生労働省から発表のあった介護人材にかかる需給推計によると、需用見込253万人に対し、就業215万人が見込まれ、全国で38万人が不足する。介護人材の不足解消に向け、これまで以上に関係機関や関係者が共同で取り組まなければならない緊喫の課題となっている▼また、「保育所落ちた…」の匿名ブログで待機児童への関心が高まり、保育士の確保も大きな社会問題となっている▼そのような中、一億総活躍社会実現のため、再就職準備金貸付制度が創設、修学資金貸付制度も充実されるなど、介護離職ゼロ、希望出生率1.8を目指した施策がはじまろうとしている▼京都府では、全国で初めて「きょうと福祉人材育成認証制度」を創設、「上位認証制度」が近く始まり、安心して働ける法人・事業所をわかりやすく学生に紹介する取組として全国から注目をされている▼本会では就職フェア、ジョブネット等の事業を、京都府等行政法人・事業所、養成校の関係機関と一体的に取組を行うことで、福祉人材不足の解消の一端を担っており、昨年10月には「FUKUJO Bきょうと」がオープンし、京都府と本会が戦略的に人材確保・育成・定着に取組み、京都府民の誰でもがいきいきと働ける社会づくりを進めることで、介護・子育ての環境整備を進めていければと考えている。

(SC)

京都府社会福祉協議会 事業計画・予算

京都府社会福祉協議会では、「第4次中期計画(平成27年～31年)」に基づき、次の5つの柱にそって事業を推進していきます。

重点事業

1 「生活に困窮する人の自立支援」と「社会的孤立を防ぐ取り組み」の一体的な推進

- さまざまな困難を抱え生きづらさを感じている人々の自立と自己実現を支えます
- 生活困窮者支援事業推進チームによる情報提供、自立相談支援機関との連携の促進、情報交換会の開催等
- 生活福祉資金貸付制度の運用・連携
- 自己決定支援を重視した地域福祉権利擁護事業の推進・支援
- 法人後見事業への取組推進
- 社会的孤立を防ぐ地域づくり・仲間づくり・新たな仕組みづくりを推進

2 社会福祉法人との連携・協働と福祉サービスの質の向上

- 社会福祉法人が公益的な役割を發揮し、地域の福祉課題を解決する仕組みをつくり、協働して実践します
- 京都地域福祉創生事業の推進
- モデル的実践事例の事業展開
- 京都府社会福祉法人経営者協議会、京都府社会福祉施設協議会、京都府市町村社協連合会、京都市社協等と連携
- 各地域・法人・施設実践の見える化
- 利用者への権利擁護、利用者と事業所との対等な関係・環境づくりを推進します
- 福祉サービス運営適正化委員会
- 事業者第三者委員の設置促進、機能の發揮、苦情解決体制の確立
- 地域福祉権利擁護事業の運営監視、実施体制の強化
- 介護・福祉サービス第三者評価事業
- 介護・福祉サービス第三者評価等支援機構の事務局運営、事業の普及促進

3 福祉・介護人材の確保、定着、育成のための総合的な事業推進

- 社会福祉事業経営の根幹である福祉・介護人材確保に向けた総合的な取り組みの実施により、安定的な福祉基盤の確保を図ります

4 「防災・減災のまちづくり」と「被災者・被災地のニーズに沿った災害支援活動」の推進

- 福祉人材マッチング支援事業を中核とする人材確保対策の総合的推進
- 潜在有資格者の登録システムや貸付制度を活用した事業の推進
- 無資格者に対する事業展開
- 子ども・子育て支援新制度に対応する保育人材確保事業の実施
- 認証制度の普及に伴うキャリアパス対応型研修等の研修体系再編整備
- 子ども・子育て支援新制度に対応する保育人材確保事業の実施
- 京都府、京都府災害時要配慮者避難支援センター、京都府民生児童委員協議会等と連携し、要配慮者支援の取組をめざす。
- 市町村社協災害ボランティア担当
- 社会的孤立をはじめとする地域の福祉課題を可視化させ、新たな枠組みを提示するなど福祉分野を超えた多様な団体や機関の参画を促し、解決に向けた歩みをマネジメントします
- 関係団体との連携促進

5 幅広い協働による事業展開

- 市町村災害ボランティアセンターのブロック相互支援体制の構築、との連携
- 「災害時連携NPO等ネットワーク」の連携
- 学生との繋がりが
- 府災害ボランティアセンターの事務局として、多様な団体との広域的連携の促進
- 企業、経済界との連携・協働事業の推進(CSR京都への参画)
- マスメディアへのアプローチの強化
- 京都府民生児童委員協議会、京都府共同募金会との連携

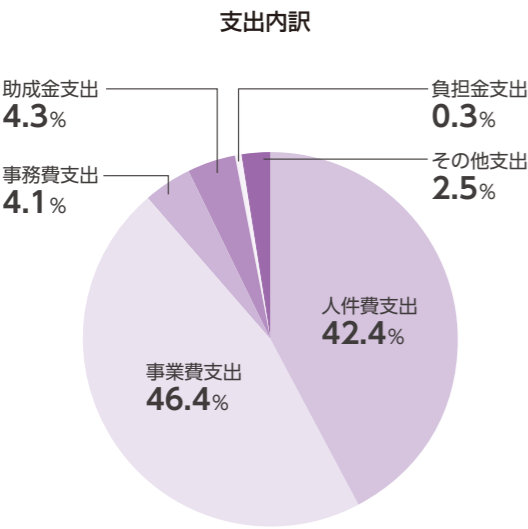
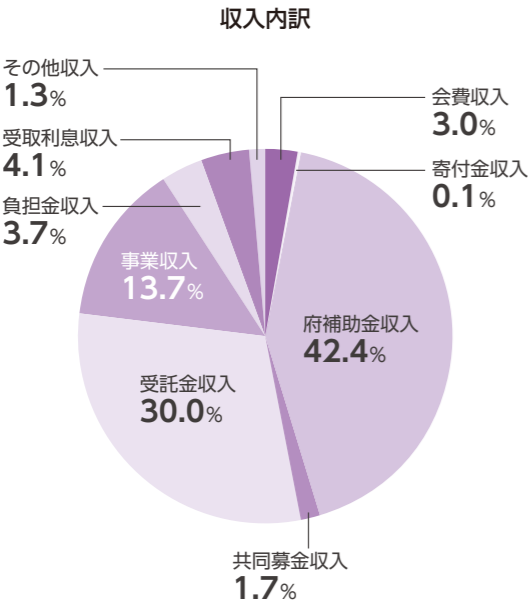
平成28年度一般会計予算の概要

一般会計 実質的収支のまとめ

(単位：千円)

	当初予算額	前年度予算額	増減
事業収入	483,564	577,279	△93,715
事業支出	484,323	576,475	△92,152
事業差額	△759	804	△1,563
その他収入	120	80	40
その他支出	72	72	0
その他差額	48	8	40
当期収支差額	△711	812	△1,523
前期末残高	80,830	68,157	12,673
当期末残高	80,119	68,969	11,150

※民間社会福祉施設整備資金貸付事業にかかる収支等を除く実質的な収支



子どもたちが笑顔になる場所

嵐山 ども食堂



わっかプロジェクトとは別に取組まれている事例ですが、地域の子どもたちにおいしいご飯が食べられる場所をつくりたいという思いで地域の父親たちが開いている“嵐山ども食堂”取材しました。

「チラシを見てご飯を食べたいと思ったから来た」「みんなで話せるのが楽しい」「200円でおなかがいっぱいになる」

そんな子どもの声を聴くことができました。

場所は、京都市右京区の車折神社近くにあるレンタルカフェスペース美雲創業BOX^(注)。たくさんの子どもの歓声が響き渡ります。ここで月1回、手作りのおいしいご飯が提供されています。嵯峨幼稚園の園児の父親たちの集まりである「おやじの会」のメンバー4人が企画し、平成27年11月にスタートしました。

きっかけは平成27年の1月の小学校での餅つき大会。ある子どもがお餅をタッパーに入れて持ち帰る姿を目の当たりにした「おやじの会」のメンバーが発起人となって始まりました。

メニューは1回目がカレーライス、2回目はきつねうどん、3回目はたこ焼きと焼きそばで、毎回30～40人の子どもや大人が訪れます。メンバーには食品会社の経営者やサラリーマンの方など様々な方が参加されていて、特に食材や調理にはこだわっています。

メンバー達は、「身銭は切らないけれどマンパワーは使う」をモットーに、リーダーを置かないゆるやかな運営を心がけておられます。広報は、一度だけチラシを新聞へ折り込みしましたが、それ以外にご飯を食べに来た子どもたちがお店の前でチラシを配ったり、道行く人たちに声掛けをしたりして地道に行なっています。

また、近隣のお寺の住職や民生児童委員からも「何かできることはないか」と声がかかるようになりました。取材に訪れたときも、御高齢のかたが「今日はまだ開店しないの?」とお店をのぞかれていて、活動が地域に根付いている様子がうかがえました。

社会的な孤立を防ぐこういった取り組みが多く地域で実施されるよう、本会としても「わっかプロジェクト」を推進していきます。

※平成28年3月13日(日)より「嵐山寮ひろさわ」内で取組まれています。

このように、育児中の母親の交流の場、孤立を防ぐ場、子どもの交流の場として非常に有効に活用されています。

利用者の声

- 休日の過ごし方が変わって、外出することが増えた
- ママ友のつながりが増えた
- 悩みを相談できる場所ができた
- 小学生や中学生が落ち着いて過ごせる場所は貴重

宇治市内の社会福祉法人と協働して、保育園の園庭や保育室を開放して、子どもやその保護者また地域の住民を対象に、「憩い場」、「遊び場」、「利用者・協力者がつくるプラスαの場」として、喫茶や子育てセミナーまた各種教室の開催などに取組んでいます。平成27年度は60回を超える取組みを行い、次のような声をいただきました。



宇治市での「わっかプロジェクト」の取組み



宇治市での取組みの様子



今後地域福祉を充実したものとするため、ぜひとも「わっかプロジェクト」に参画していただきますようお願いいたします。



その他の「わっかプロジェクト」



宇治市や亀岡市以外にも城陽市でもプロジェクトが動き出します。平成27年度末で、「わっかプロジェクト」に参画いただいている法人は20法人です。



亀岡市での「わっかプロジェクト」の取組み

亀岡市内の社会福祉法人と協働して、老人デイサービスセンターのスペースを子どもやその保護者、高齢の方など全ての地域住民の居場所として提供し、晩御飯も食べられるようになっていきます。亀岡市での取組みは3月に始まったばかりですが、今後も毎月1回のペースで開催する予定です。

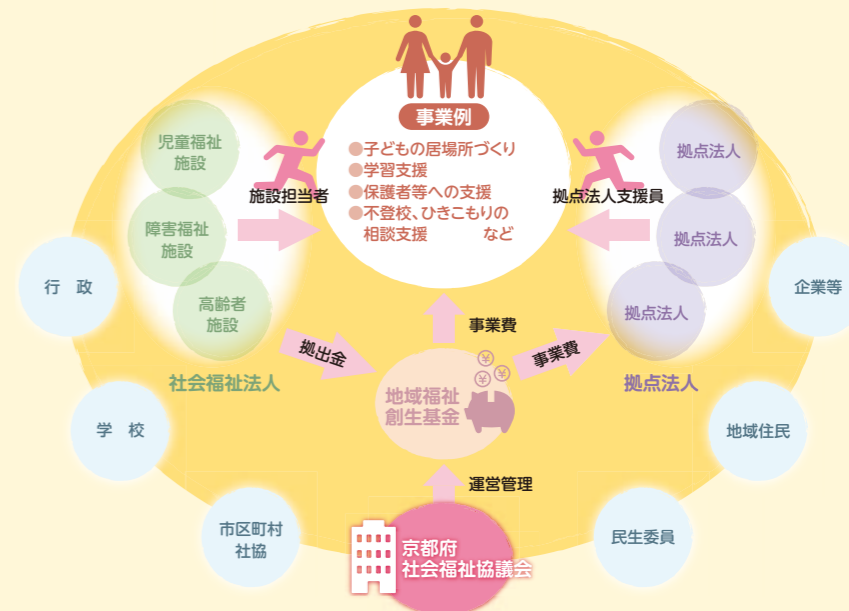
社会福祉法人がわっかになって

わっかプロジェクト

孤立を防ぐための 京都府社会福祉協議会の取組み

福祉課題を解決する

こんにちは、人口の減少、超少子化・高齢社会や生活様式の多様化などを背景とした社会情勢の変化に伴って、地域社会の中で様々な生活課題を抱える子どもや大人が増えてきています。そうした課題に対応するため、本会は社会福祉法人や様々な団体と協働して豊かな地域社会の創造を目指して、京都地域福祉創生事業(わっかプロジェクト)を立ち上げました。現在「わっかプロジェクト」では、次の2つの取組みが進んでいます。



つひに なまぎと

④ 日常の暮らしの中にあるつながりを見つけて結びなおす「絆ネット」の取り組みをエピソードを通してつづります。

笠置町は、京都府内で最も人口の少ない1400人ほどの小さなまち。小さいまちならではの顔の見える関係があり、すれ違う人の名前はもちろん、飼犬の名前さえも知っている。そんなつながりがあると思っていました。

ところがある日、町内のある区長さんの一言に衝撃を受けました。「あまり顔を知らない人がいる。最近誰がどうしているかわからない」と。このまちでも出会うやつなかりがない人は多くいるのではないかと考えさせられました。「笠置町らしいつながりをもっと一度」との思いで、絆ネット事業に取り組み始めました。

見えてきた、今の、いま。

そんな想いでまちへ出れば、見えていたように見えていなかった。今のまちの姿が見えてきました。

サロンにいられていたAさん夫婦。「今はいい。でもこれから先、一人になったら…」と元氣そうな声に不安が混じります。笠置町内でも高齢化は著しく、独

笠置町らしいつながりをもう一度

居の方も増えてきました。自分たちでつながり支え合っていくことの大切さを実感してもらわれるように感じました。

また、坂の多いこのまちは、バス停まで行くのにも一苦労。平日のバスに乗って町内を回ってみました。ステップバスは乗りづらく、バス停まで遠い。生活の大変さが見えてきました。歩いてもらえるおばあちゃんが見えたらいい。「バス停をもう少し坂の手前につくれないだろうか」と運転手さんのつぶやき。いつもの生活のしんどさに気づいているのは運転手さんと同じだとわかりました。食料品店を営むBさんは、移動販売で町内を回っておられます。「いつも買いに来られる方がいらっしやらないと心配になります」。商店や事業所の方々が気づいている。そんな思いを持ってもらえることをあらためて知りました。

つながりが元氣を生む

そんなみんなの思いと力をつなぎ合わせて一緒に支え合って暮らしていけることのできるまちをつくらせていきたいと思います。見守り隊を発足させました。「見守り隊に登録してから、今までよりも見守りや人とのつながりを意識するようになった」と話されるBさん。つながり合うことで見守られる人も見守る人も元氣になれる。見守り隊に関わってくださっている方々の姿から感じます。地道ながら、笠置町らしいつながりをつくる活動を続けていきたいと思います。

(笠置町社協 中 美幸)

夢中! 熱中!

だから続けたい この仕事

ふくしびと

福祉の現場で働く人たちの熱い想いメッセージを伝えるコーナーです。京都府内で「熱い福祉」を「夢中」で実践している方々にスポットをあてて、元氣や楽しさ、やりがいをも「生」の声でお届けします。



私は学生時代から「人の役に立てる仕事をしたい」という思いから、将来は福祉の分野で働きたいと考え、福祉系列の学校へ進みました。学びのなかで一概に「福祉」といっても、様々な分野の福祉があり職種も多彩であること、それぞれの福祉によって仕事内容も大きく違うことに気づかされました。

卒業後は高齢者福祉系列の施設で働いていました。そんななかで特に関心のありました障害者施設である久美の浜福祉会「かがやきの杜」と出会い、縁あって支援員として働かせていただくことになりました。

仲間の思いに寄り添った 支援員をめざして

かがやきの杜では、生活介護事業所「あおぞら」と就労継続支援B型事業所「つばさ」を運営され、「あおぞら」ではさをり織り班・楮を使っている和紙をすく紙漉き班・メール便やアルミ缶リサイクルなどのみらい班「つばさ」では国産大豆にこだわった豆腐班・食品加工班・資源リサイクルや下請け作業を行うエコロボットの6つの班があり、利用者(仲間)の方たちは毎日一生けん命作業をされています。

私は豆腐班で仲間の支援をさせていただいています。豆腐班は、スーパーマーケットや学校給食また地域のみなさまに納品・配達をするため、早朝より製造を開始しています。豆腐づくりは気温や湿度また水温等の変動により、大豆を水に漬けておく時間や製造時に加水する水量も日々異なるため、毎日微調整しながらの製造です。

「さらに美味しい豆腐を作ろう」とみんなで話し合いながら日々追求しています。豆腐班の仲間が一つとなり、一生けん命取り組むなかで四季のような様々な表情があり、笑顔を見せてくれます。その笑顔を見るのが私の幸せであり楽しみです。

今後も仲間の思いに寄り添った支援ができるように努めていきます。



吉岡 哲也さん

●よしかてつや
施設名: 社会福祉法人 久美の浜福祉会 かがやきの杜 就労継続支援B型事業所「つばさ」
事業所住所: 〒629-3557 京丹後市久美浜町竹藤22-1
TEL.0772-84-0759 FAX.0772-84-0858
職種: 生活支援員
経験年数: 3年
▶好きな言葉: 自由
▶夢中になっている事: 園芸

*写真撮影のために一時的にマスクを外しています(表紙とこのページの写真)。

京都府社協

新入職員 紹介

コーナー

平成28年4月1日
付けで採用になった
新入職員を紹介
します。



すがはら まこと
菅原 真人さん
福祉人材課主査

配属前は生活保護のケースワーカーをしておりました。ケアマネさんと仕事をする機会が多く、私にとって信頼できる心強いパートナーでありました。

とりわけ介護は、入浴や排泄といった人間の尊厳に深く関わる仕事でもあります。

今、当センターの一員として、これまでの行政経験と皆様のお知恵をお借りしながら、福祉をめざす方の一助となれますよう、何事も愚直をモットーに、業務に励んでまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



くろだ まさかず
黒田 昌一さん
研修課主事

研修課の事業を通して福祉に関わる方々とのつながりを大切に、すべての方が安心して過ごせる京都を目指し、日々の業務に励みたいと思います。皆様からのご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



おおた ゆかり
太田 有香さん
総務課主事

地域で暮らす一人一人にとっての「ふだんの暮らしのしあわせ」のためにできる自分の役割とは何かを常に考え、業務に取り組んでいきたいと思っています。皆様からのご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

今年度4月より民生課でお世話になります。この機関誌のタイトルでもある『京都の福祉』を支える一員として、これから精一杯、努力させていただきます。何卒、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



やまもと はるか
山本 榛華さん
民生課主事

案内 安心して暮らせる地域づくりのパートナー
京都府社協では、賛助会員を募集しています！

本会は社会福祉法に基づき設立された社会福祉法人です。京都府の地域福祉を推進する民間団体として「福祉で地域づくり」を合言葉に、住み慣れた地域でだれもが安心して生活できる、そんなまちづくりをめざし、次の5つの重点事業を掲げ諸事業に取り組んでいます。ご理解の上、ぜひ本会の「賛助会員」としてご支援ください。

<5つの重点事業>

- ①「生活に困窮する人の自立支援」と「社会的孤立を防ぐ取り組み」の一体的な推進
- ②社会福祉法人との連携・協働と福祉サービスの質の向上
- ③福祉・介護人材の確保、定着、育成のための総合的な事業推進
- ④「防災・減災のまちづくり」と「被災者・被災地のニーズに沿った災害支

援活動」の推進
⑤幅広い協働による事業展開
会費額(年額)

- 賛助会員 個人 1口5,000円、法人 1口10,000円で希望口数

<賛助会員の特典>

- 京都府社会福祉協議会発行の機関紙「京都の福祉」(年8回発行)をお送りします。府内の福祉の最新情報がお手元に届きます。
- 全社協出版部発行の福祉図書が割引価格で購入できます。
- 社会福祉大会など本会主催の講演会等のご案内を差し上げます。

賛助会員についてのお問合せ・お申込先
京都府社会福祉協議会 総務部総務課
〒604-0874 京都府京都市中京区竹屋町通烏丸東入ル清水町375
TEL.075-252-6291 FAX.075-252-6310
HP <http://www.kyoshakyo.or.jp/introduction/introduction4/post-2.html>

案内 施設の新築や増改築を考えておられる社会福祉法人の皆さまへ
府社協では低利による融資を行っています

本会では、京都府内(京都市を除く)の社会福祉法人に対し、「施設整備等融資金貸付事業」を行っています。貸付対象事業には次のようなものがあります。

- 社会福祉施設の新設や増築費用
- 社会福祉施設の修繕や改築費用
- 固定設備や屋外設備、器具等備品の整備費用
- 施設の新設等を行うための土地取得費用
- (独)福祉医療機構の貸付金や地方公共団体の補助金が交付されるまでのつなぎ資金

詳しくは、本会ホームページ(市町村社協・福祉事業者の方へ)をご覧ください。TEL. 075-252-6291

平成28年度
社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険 検索

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の
事故・紛争円満解決のために!

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険)

1 基本補償(賠償・見舞)

▶補償金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)	
賠償事故	対人賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円	
	対物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円	
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円	
	うち現金補償限度額(期間中)	20万円	20万円	
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円	
お見舞い等	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円	
	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円	
	被害者対応費用(1名につき)	死亡	10万円	10万円
		後遺障害	0.3~10万円	0.3~10万円
		入院時	3万円	3万円
通院時		1万円	1万円	
傷害見舞費用	(1事故で10万円限度)	死亡時 100万円 入院時 1.5~7万円 通院時 1~3.5万円		

保険期間1年

▶年額保険料(掛金)		定員	基本補償(A型)
補基本 償(A型)	付 見舞 費用 償(B型)	1~50名	35,000~61,460円
		51~100名	68,270~97,000円
		以降1名~10名増ごと	1,500円
基本補償(A型) 保険料		【見舞費用加算】 定員1名あたり 入所: 1,300円 通所: 1,390円	

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。



です。
割安な保険料
充実した補償と
スケールメリットを活かした

◆28年度新設 使用者賠償責任補償(プラン3-①オプション)
社会福祉法人役員の賠償責任補償(プラン4)

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(「賠償責任保険」「普通傷害保険」「労働災害総合保険」「約定履行費用保険」「動産総合保険」)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

〈引受幹事〉損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第三課
〈保険会社〉
TEL: 03(3593)6824
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

- 「京都の福祉」へのご意見、ご感想、とりあげてほしいテーマなどをお寄せください。
- 本会へのご意見等は、下記URLの「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。
<http://www.kyoshakyo.or.jp>



本紙は、共同募金の配分金によってつくられています。